

MLC350 国際コミュニケーション論

3年 3,4クォーター

担当教員	細谷 龍平
授業形態	講義, 演習
単位数	2
曜日・時限	未定

授業概要

この科目では、多様な言語・文化・価値観が共存する国際社会における、言語及びその他の情報伝達媒体を通じたコミュニケーションのあり方を種々の視点から概観する。また、国際的な意思疎通、調整、交渉、発信などが求められる様々な具体的シチュエーションを想定し、そこに働く原理、仕組み、ルールなどを研究・考察する。後半は、各受講生が自ら選択するシチュエーションについてプレゼンテーションを行い、討議する。

到達目標

- (1) 国際コミュニケーションという多面的なテーマへの様々なアプローチを概観し、学際的・原理的な理解を得る。
- (2) これらの原理に照らして、具体的なシチュエーションを研究・考察し、実践的な思考力・応用力を養う。

先修科目

「国際関係論」及び「国際政策」を履修しておくことが望ましい。

教科書・参考資料等

- (1) Marshall McLuhan “The Medium is the Massage” 9th Edition, Gingko Press 2001
- (2) James W. Carey “Communication as Culture” Routledge 1992
- (3) The MacBride Commission “Many Voices, One World” Rowman & Littlefield 2003
- (4) Janet H. Murray “Hamlet on the Holodeck” MIT Press 1998
- (5) 三浦信孝他 「多言語主義とは何か」 藤原書店 1997
- (6) Wolfgang Donsbach, Editor “International Encyclopedia of Communication” Wiley-Blackwell 2008 –
- (7) 島田久仁彦 「交渉プロフェッショナル」 NHK 出版 2013
- (8) レイチェル・カーソン 「沈黙の春」 新潮文庫 1974
- (9) 久保田賢一 「開発コミュニケーション」 明石書店 1999
- (10) Robert R. Ulmer and others “Effective Crisis Communication” 3rd Edition, SAGE Publications 2014

授業の方法

この授業は講義及び演習形式で進める。双方で質疑応答、討議に積極的に参加することが求められる。特に演習においては、各人が英文で作成したレポートに基づくプレゼンテーションを行い、これに対し、相互批評、少人数のグループでのディスカッションなどを行う。

成績評価

積極的なクラスの議論への参加。レポートのプレゼンテーション、及び相互批評、質疑への応答。複数の視点から分析し、総合する力。議論の展開に即して考える応用力。

成績

- 40% 議論への参加
- 60% レポート内容

授業スケジュール

第1回：メディア論の系譜

科目全体を紹介するとともに、多彩で学際的な研究領域であるコミュニケーション論を学ぶ前提として、マクルーハンのメディア環境論などを通して、メディア（情報伝達媒体）という概念自体をどう捉えるかを考える。

第2回：マスメディアと国際情報秩序

報道の自由と国際関係の関わりについて、70年代のユネスコでの新国際情報秩序の議論、CNN効果、オルタナティヴ・メディアの台頭などの検証を通して考察する。

第3回：ニューメディアとコミュニケーション

インターネットとソーシャルメディアの登場によるコミュニケーションの新しいパラダイムを分析し、国際間の意思疎通、合意形成、社会変動へのインパクトなどを考察する。

第4回：非言語コミュニケーションと国際理解

言葉以外の手段を用いた意思疎通の諸形態を概観し、国際コミュニケーションへの応用を考える。また、映画、漫画・アニメ、和食などの文化的媒体に見る日本のソフトパワーを検証する。

第5回：多言語コミュニケーション

個人による複数外国語の習得と、少数言語の尊重が、異文化への理解力と複眼的な思考力を高め、国際共存のための重要な原則となり得ることを、ユネスコや欧州評議会の諸文書と経験から学ぶ。

第6回：組織間コミュニケーション

政府、国際機関、民間企業、NGO、個人などの多様なアクターが介在する国際社会において、効果的な意思疎通、合意形成を行うための様々なコミュニケーションのあり方を探求する。

第7回：国際交渉

利害の調整を必要とする諸問題について合意形成を図る国際交渉におけるコミュニケーションのあり方を、二者間、多数者間、相互の力関係の如何、問題の性質などによる様々な類型に分け、事例に沿って考察する。

第8回：国際発信

世界に向けた広報宣伝、文化紹介など、国際発信のあり方と、そのコミュニケーション術を、諸類型と事例を通して学ぶ。

第9回：開発・環境コミュニケーション

重要な国際課題への取り組みにおけるコミュニケーションの役割について、開発協力と、地球環境問題に即し、事例を通して考える。

第10回：危機管理コミュニケーション

政府や企業が様々な危機に直面した際に如何に対応すべきかについて、特に国際コミュニケーションが求められる場合の理論と実際を、ケーススタディーを通じて学ぶ。

第11回：プレゼンテーション

受講生が選んだ事例について、各人プレゼンテーションを行い、質疑応答、討議する。

第12回：プレゼンテーション

第13回：プレゼンテーション

第14回：プレゼンテーション

第15回：プレゼンテーション

事前・事後学習

事前には、先修科目の復習、参考資料などを読んでの予習を行う。事後には、講義内容と討議を踏まえ、自らの関心に沿って、更に参考資料を含めた調査・考察を行い、プレゼンテーションに向けたレポートを作成する。